第35回ASTAP総会及び第1回APT WTSA-24準備会合の結果報告

総務省　国際戦略局 通信規格課 国際情報分析官（執筆当時）　重野（しげの）　誉敬（たかひろ）

第35回ASTAP総会（ASTAP-35）及び第1回APT WTSA-24準備会合（APT WTSA24-1）が以下のとおりバンコク（タイ）において開催された。新型コロナウイルス感染症の影響により、ASTAP会合は2020年11月開催のASTAP-32以降、APT WTSA準備会合については2020年6月に開催された第2回APT WTSA-20以降、オンラインでの開催であったため、どちらも4年ぶりの物理開催となった。今回のASTAP-35プレナリ及びAPT WTSA24-1は物理とオンラインとのハイブリッドでの開催となった。本稿では両会合の結果を中心に報告する。

【開催日程】　第35回ASTAP総会
2023年4月17日（月）～20日（木）
第1回APT WTSA-24準備会合
2023年4月21日（金）

【開催場所】　バンコク（タイ）：ASTAP-35プレナリ及び
APT WTSA24-1はハイブリッド

1. 第35回ASTAP総会（ASTAP-35）

ASTAP（Asia-Pacific Telecommunity Standardization Program）は、アジア・太平洋地域におけるICT分野の標準化に関する地域協力を確立し、グローバル標準化活動に貢献すること、ICT分野の研究、分析を通じてAPT（Asia-Pacific Telecommunity）メンバー間における知識と経験を共有すること等を目的としている。

今回のASTAP総会には、APT加盟国38か国のうち、24か国の主管庁代表に加え、各国の企業・団体を含め、計179名が参加した。

日本からは、ATR、KDDI、NEC、NICT、NTT、NTTドコモ、OKI、楽天モバイル、TTC及び総務省より計23名の参加があった。

今回は、プレナリのみが物理とオンラインとのハイブリッドで開催され、作業グループ（WG）及び専門家グループ（EG）については物理のみでの開催とされた。

(1) ASTAPの結果概要

○ASTAPの組織体制

前回会合（ASTAP-34）においてASTAP総会の要職者の任期が満了したことを受け、今期議長及び副議長の選出が行われた。議長には韓国からHyoung Jun Kim氏、副議長には日本から岩田秀行氏（TTC）及び中国からYou Xiaoyu氏の立候補があり、選出された（いずれも再任）。ASTAP議長・副議長の任期は3年である。

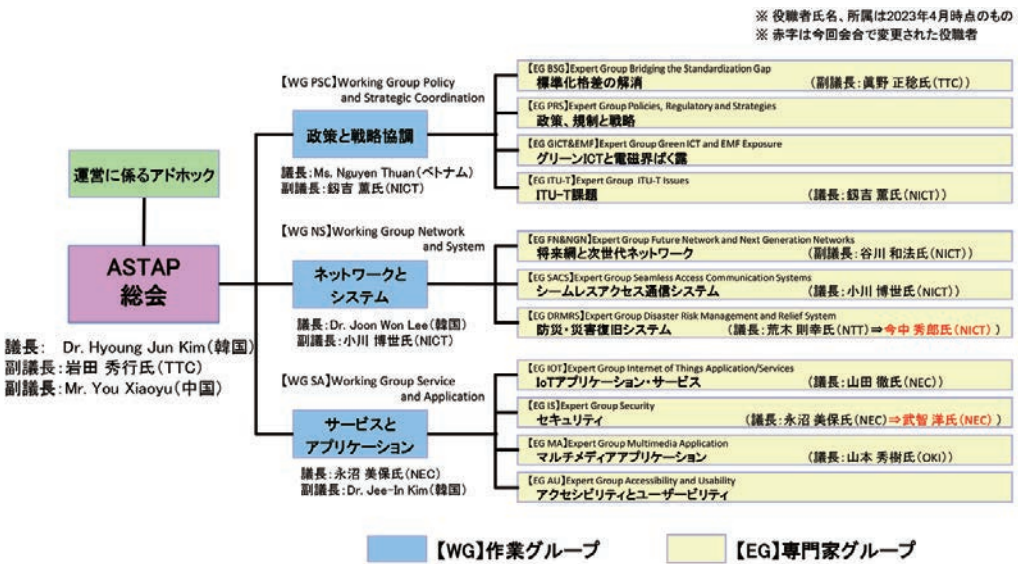
また、ASTAPの検討体制は11の専門家グループ（EG）と、技術分野ごとに専門家グループを取りまとめる3つの作業グループ（WG）で構成されている。各専門家グループからの成果文書は作業グループでの承認を得た上で、プレナリにおいて最終審議が行われる。

今回会合においては、EG DRMRS（Disaster Risk Management and Relief System：防災・災害復旧システム）において議長に就任していた荒木 則幸氏（NTT）に代わり、今中 秀郎氏（NICT）が就任したほか、EG IS（Security：セキュリティ）において議長に就任していた永沼 美保氏（NEC）に代わり、武智 洋氏（NEC）が就任した。ASTAPの体制と我が国からの役職者を図に示す。

○インダストリーワークショップ及び標準化ワークショップ

「AI」「メタバース」及び「オープンソース」に関するインダストリーワークショップが開催された。「AI」（人工知能）をテーマとするセッションでは、永沼 美保氏（NEC）が議長を務め、我が国からはWong Leon氏（楽天モバイル）が「ITU-T 自律ネットワークフォーカスグループ（FG-AN）」について発表を行った。また、「メタバース」のセッションでは、今中 秀郎氏（NICT）が「ITU-Tメタバースフォーカスグループ（FG-MV）」について、「オープンソース」のセッションでは川島 正久氏（NTT）が「NTTにおけるオープンソース関連活動」について、それぞれ発表を行った。

標準化ワークショップはEG BSG（Bridging the Standardization Gap：標準化ギャップの解消）が主催し、日本、韓国、中国、ベトナムから「標準化のキャパシティデベロップメント」に関する発表が行われた。我が国からは標準化機関として岩田 秀行氏（TTC）が「TTCにおける標準化の教育と人材開発の取組み」について発表を行った。



■図. ASTAPの体制図

○日本企業・研究機関からの寄書に関する検討

日本企業・研究機関からの寄書に関する主な検討結果は、以下のとおり。

・新規作業項目の開始

[提案者:NICT]「ミリ波超高周波数帯におけるシームレスアクセスネットワークを実現する光ファイバ・無線接続技術に関するAPTレポート」の新規作成をEG SACS (Seamless Access Communication Systems:シームレスアクセス通信システム) において提案し、作業開始が承認された。100GHzを超えるミリ波〜テラヘルツ波など高周波数帯の大容量無線技術と光ファイバネットワークをシームレスに接続するための要素技術及びシステム技術に関するレポート。

・報告書等の完成・改版

[提案者:NEC] 技術レポート案「APT地域におけるスマートシティのためのSDGsゴール11の最優先ターゲットに関するレポート」の完成に向けた内容の修正をEG IOT (Internet of Things Application/Services:IoTアプリケーション・サービス) において提案した。報告書案はプレナリで承認され、技術レポートが完成した。

・質問票の発出

[提案者:OKI]「アジア太平洋地域のCDNサービスの利用に関するアンケート」発出をEG MA (Multimedia Application:マルチメディアアプリケーション) に提案し、承認された。

[提案者:OKI]「Beyond 5G時代の将来のネットワークサービスに対する課題と要求のアンケート」発出をEG FN&NGN (Future Network and Next Generation Networks:将来網と次世代ネットワーク) において提案し、承認された。

○他国企業・研究機関からの寄書の概況

マレーシアより3件、中国より2件、韓国より28件、インドネシアより3件、タイより1件の寄書が提出された。いずれも地域勧告の提案ではなく、事例の紹介、レポート作成または改版の提案、ベストプラクティスを収集したガイドライン等の作成及びレポート・ガイドライン作成のためのアンケートを実施する提案である。

以下の新規技術レポートが完成したほか、3件の既存の報告書が改版された。

[提案国:マレーシア]「情報ネットワークセキュリティ管理 (INS) のためのセキュリティガイドライン」

○主な出力文書

最終プレナリで承認された主な出力文書は**表1**のとおりである。3件の新規レポート、3件のレポート改訂、7件の質問票及び1件のリエゾン文書について合意した。

○今後の予定

次回会合については、日程は確定していないが2024年4月下旬から5月中旬ごろの開催予定であるとされた。また、開催地についてはホスト国を募集中とされた。

また、ASTAP議長より、ASTAPの将来に向けた検討タスクフォースの設置が提案され、承認された。

■表1. ASTAP-35において承認された主な出力文書

文書番号	タイトル	担当WG
新規レポート		
ASTAP-35/OUT-11	Security Guidelines for Information and Network Security Management（INS）	WG SA
ASTAP-35/OUT-12	Guideline for the Framework of Cloud Access Security Broker for Cloud Service Security	WG SA
ASTAP-35/OUT-15	APT Report on High-priority Targets in Goal 11 of SDGs for Smart Sustainable Cities in the APT Region	WG SA
レポート改訂		
ASTAP-35/OUT-23	Revised APT Report on Asia-Pacific Regional Activities on Human Exposure to EMF	WG PSC
ASTAP-35/OUT-24	Revised Status Report on Standardization Activities for e-Waste and Rare Metals	WG PSC
ASTAP-35/OUT-25	Revised APT Rreport on Handbook to Introduce ICT Solutions for the Community in Rural Areas	WG PSC
質問票（Questionnaire）		
ASTAP-35/OUT-13	Questionnaire on the Current Status of the APT Countries' Relay Services for Accessible Emergency Communication	WG SA
ASTAP-35/OUT-14	Questionnaire on Status of the APT Countries' Mobile Accessibility	WG SA
ASTAP-35/OUT-16	Questionnaire on IOT Ecosystem Development Activities of the APT Countries	WG SA
ASTAP-36/OUT-17	Questionnaire for Metaverse Use Cases in Asia-Pacific Region	WG SA
ASTAP-35/OUT-18	Questionnaire to Survey Decentralized Identity Technology and Its Application	WG SA
ASTAP-35/OUT-19	Questionnaire to Survey the Problems and Requirements on CDN Services in Asia-Pacific Region in Covid-19	WG SA
ASTAP-35/OUT-22	Questionnaire for Problems and Requirements to Future Network Services in Beyond 5G Era	WG NS
出力リエゾン文書		
ASTAP-35/OUT-21	Liaison Statement to ITU-D SG1 Question 3（Q3/1）	WG NS

2. 第1回APT WTSA-24準備会合（APT WTSA24-1）

本会合は、2024年秋にインドにて開催予定のITU世界電気通信標準化総会（WTSA-24）に向け、アジア・太平洋地域の意見調整等を行い、APT共同提案を策定することを目的に開催されるものである。WTSA-24までの間に5回開催することが予定されており、今回は1回目の開催となる。

今回の準備会合には、APT加盟国38か国のうち、19か国の主管庁代表と、企業・団体を含め、計127名（うち39名がオンライン）が参加した。

○冒頭挨拶

会合の冒頭において、近藤APT事務総長及び尾上ITU電気通信標準化局長より挨拶が行われた。

○主な結果

今後開催される準備会合の構成や役職者の選出が行われ、表2のとおり役職者が決定した。

■表2. APT WTSA-24準備会合 役職者一覧

	議長	副議長
全体会合	Dr. Hyoung Jun Kim（韓国）	岩田 秀行氏（TTC） Mr. Sushil Kumar（インド） Mr. Xu Heyuan（中国） Mr. Behzad Ahmadi（イラン）
WG1（作業方法）	山本 浩司氏（NTT）	Ms. Minah Lee（韓国） Mr. Wu Tong（中国） Mr. Abhay Shanker Verma（インド） Ts. Norzailah Mohd Yusoff（マレーシア）
WG2（組織構成）	Dr. Kangchan Lee（韓国）	永沼 美保氏（NEC） Mr. Arun Agarwal（インド） Mr. Qu Zhicheng（中国） Mr. Do Xuan Binh（ベトナム）
WG3（規制/政策と標準化関連事項）	Mr. Li Cheng（中国）	本堂 恵利子氏（KDDI） Mr. Kihun Kim（韓国） Mr. Avinash Agarwal（インド） Mr. Dao Ngoc Tuyen（マレーシア）

○今後の予定

第2回準備会合 2024年1月下旬（1～2日間）オンライン
第3回準備会合 2024年3月上旬（3～4日間）場所未定
第4回準備会合 2024年5～6月（4日間）場所未定
第5回準備会合 2024年8月中旬（4日間）バンコク